

## 研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は1963年4月に富山大学薬学部附属和漢薬研究施設として設置されており、2013年に設置50周年を迎えました。

本研究所の使命は、経験知の集積である伝統医学、あるいはそこで使用される薬物について、先端科学技術を駆使して科学的に評価し和漢医薬学と西洋医薬学の融合をはかり、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人医療の確立に貢献することにあります。この使命を果たすべく、これまでも「21世紀COEプログラム」や「知的クラスター創成事業」などの特色ある学術研究プロジェクトに取り組み、2010年には和漢医薬学に特化した国内唯一の附置研究所として文部科学大臣より「和漢薬の科学基盤形成拠点」に認定されました。本事業では、和漢医薬学に関する公募型共同研究を積極的に進め、他の大学や研究機関の多くの関連研究者と密接な連携をして本分野の発展に貢献する研究を実施してきました。2005年度の拠点事業の中間評価における「漢方薬の作用機序に関する西洋医学との融合」との指摘に対し、新たに特定研究「漢方薬が有する複雑系の解析」を設定して漢方薬や生薬の作用機序の解明に関する5課題について研究を開始しております。

また、拠点として事業をさらに推進するため、2013年4月には拠点事業推進室/栄養代謝学分野を改組して病態制御部門栄養代謝学分野および拠点事業推進室として設置するとともに、拠点事業に用いる実験室を設置しました。

民族薬物資料館は改修工事を終え、全国に誇る富山大学を代表する施設として一般公開事業を積極的に行うとともに、ニュースレター刊行を継続するなど、その活動を広く発信することに努めております。

このように、共同利用・共同研究拠点の組織・機能の充実を図りつつ、所員が一丸となり和漢医薬学研究の進展を図る所存ですので、今後共、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年1月

和漢医薬学総合研究所 所長 柴原直利